

マラリア媒介蚊に迫る

飯田保健所長

松岡さんに「日本衛生動物学会賞」

自治医科大学医学部

(栃木県)の元教授

飯田保健所長

松岡裕之さん(62)

飯田市

が35年間にわたって

進めた原虫感染症の

「マラリア」と媒介

蚊の「ハマダラカ」

の研究が日本衛生動物

学会の最高賞「日

本衛生動物学会賞」

を受賞した。マラリ

ア原虫の受精準備を

誘導する物質を含む

唾液を、他の蚊より

多く飲み込むハマダ

ラカの特性が伝播に

つながっていること

を明らかにした。

12日に北海道の帯

広畜産大学で開かれ

た学会で表彰され、

「なぜハマダラカが

マラリアを媒介でき

るのか」の演題で受

賞講演をした。

松岡さんは飯田市

出身。飯田高校、新

潟大学医学部を經

て、県内の病院で内

科医として勤務。そ

の後JICAがイン

ドネシアで実施した

マラリア抑制プロジ

ェクトに参加し、医

師として封じ込め作

戦に携わった。小児

を中心に投薬で

プロジェクトは成功

したが、子どもの死

につながる重大性が

ら抑圧に意識を向

け、帰国後は医学部

に籍を置いて研究を

始めた。

受賞の研究は自治

医科大学に勤務した

1996年以降20年

余にわたり発表した

7本の論文で構成し

ている。観察により



学会賞を受賞した松岡さん

ハマダラカが大量に唾液を消費していることを見つけ、実験では受精につながる鞭毛放出を誘導する物質「GAF」が唾液中に高濃度で含まれていることを示した。他の蚊の唾液にも

GAFがあるが、ハマダラカは唾液を多く飲み込むためにGAFが中腸まで到達でき、マラリアの生殖母体の受精を誘導する。マラリアは寄生する形でその特性

を利用し、伝播していった。遺伝子操作による実験も行い、GAF生成に関わる酵素をつくるのができないハマダラカが、伝播の機能を果たせな

いことも明らかに話していた。賞は権威ある同学会が年に1人を選ぶ。松岡さんは「実現は難しいが、技術面でもマラリア抑止につながる研究ができて良かった」と語った。保健所長を務める傍ら、各地に灯火採集器を仕掛け、飯田下伊那地域の蚊の生息状況も調べている。ハマダラカに加え、日本脳炎を媒介するコガタアカイエカも大量に見つかっている。「今後も可能な限り、地域における衛生動物の実態に迫っていけたら」と話していた。